

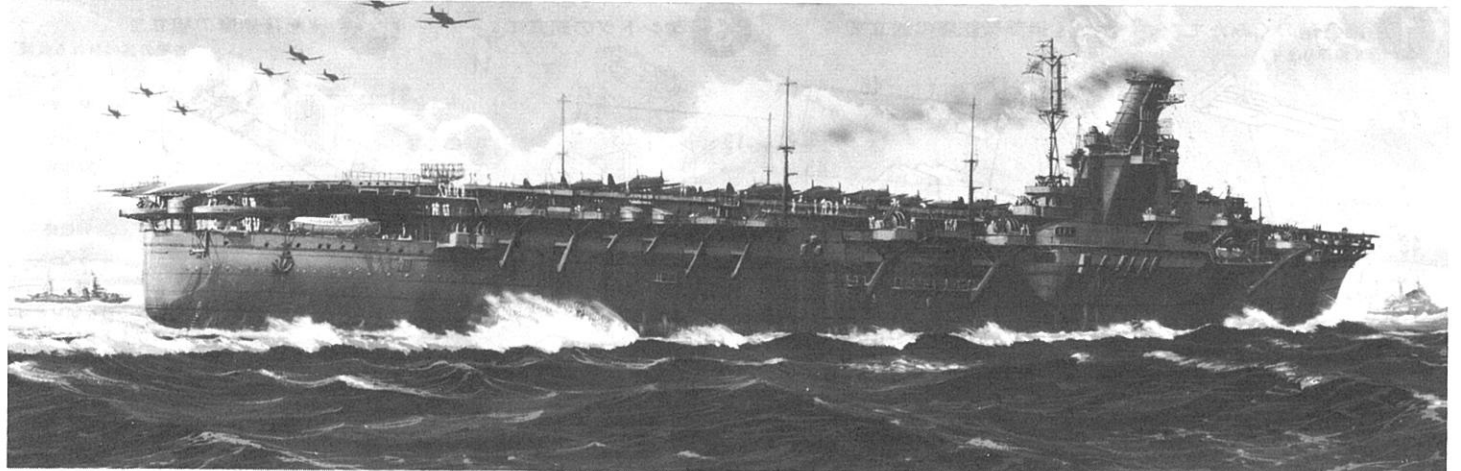
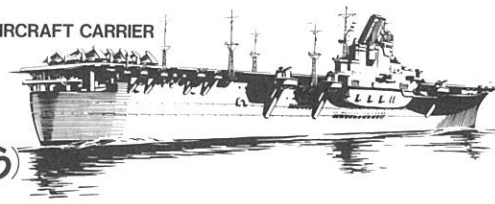
# JUNYO 隼鷹

JAPANESE AIRCRAFT CARRIER

ITEM 31212



ウォーターラインシリーズ NO.212 航空母艦(じゅんよう)



イラストレーション・上田毅八郎

## WATER LINE SERIES

### 航空母艦隼鷹について

はじめから軍艦として作られた正規の航空母艦に比べれば、防禦力はほとんどないと言ってもよい商船を改造した航空母艦にもかかわらず、昭和17年5月に完成してしまい、北はアリューシャンから南はソロモンまで、太平洋の各地を転戦し、いくたびもの損傷にもめげず、終戦まで活躍した航空母艦隼鷹は、武運にめぐまれた数少ない軍艦の一隻でした。

隼鷹は、もとの名を樫原丸(かしわらまる)といい、日本郵船が北米航路用に計画した大型高速客船から改造されました。今日のように旅客機が発達していない戦前は、海外旅行といえば船ときまっており、太平洋でも大西洋でも、各国が競って豪華客船を就航させていたのです。当時、海国日本の象徴の一つと言われていた日本最大の海運会社日本郵船は、昭和15年の東京オリンピック開催に合わせ、昭和12年、いわゆるオリンピックボートとして新田丸、八幡丸、春日丸などの豪華客船の建造を計画したのです。この中でも、特にサンフランシスコ航路に予定されていた樫原丸と出雲丸の2隻は、総トン数27,700トン、速力24ノットで、大西洋航路で活躍していたイギリス、フランスなどの海の女王達にもひけをとらない超豪華船であり、完成のあかつきには太平洋の海の女王として君臨するものと期待を集めていたのです。ところで、かねてから日本海軍は、大型高速商船を戦時には特設航空母艦に改造して使用することを考え、浅間丸、龍田丸、秩父丸(後の鎌倉丸)などの建造にあたって政府を通じて多額の補助金を出していました。しかし、これらの客船では空母に改造した場合、大きさでも速力でも十分とは言えないため、昭和8年頃より、正規空母に近い能力を持つ特設空母ができるような超大型艦の建

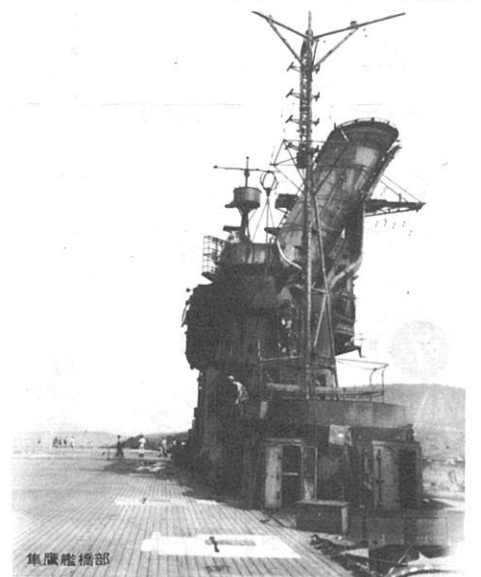
樫原丸完成予想図



造を希望していたのです。このため、樫原丸、出雲丸の建造について費用の6割を政府が援助し、そのかわりに戦時には空母に改装することで昭和13年の議会で予算が成立、早速、設計が開始されました。この設計にあたって海軍が出した主要要求は次のようなものでした。全長210m以上、幅25m以上、速力は公試運転、半載状態で24ノット、馬力は全力60,000馬力、正常48,000馬力、必要に応じて3ヶ月以内で空母に改装できること。などで、すべての面で空母に改装することを前提として設計が進められたのです。日本郵船は自社の大型客船に神社の名をつけるのを例としていました。出雲丸は出雲大社から、樫原丸は神武天皇とその皇后をまつり、神話にある建国創業の地と伝えられている樫原宮(現在の奈良県樫原市)の旧跡に設けられた樫原神宮から名前をとったものです。こうして樫原丸の建造は、昭和14年3月から三菱長崎造船所で始められました。しかし、その直後から国際情勢は悪化しはじめ、昭和15年に入ると緊張の度は一段と高まってきたため、昭和15年10月、建造中の樫原丸などを特設空母に改装することが決定されたのです。そして翌16年1月21日、正式に海軍で買収し、6月26日、第102号艦の名で進水しました。昭和17年7月5日、太平洋の女王となるはずであった樫原丸は、その姿も名前も改め、いかめしい日本海軍の航空母艦隼鷹として完成したのです。

航空母艦としての隼鷹は、公試排水量27,500トン、日本のそれまでに建造された空母の中では翔鶴級につぐ巨艦で、中型の蒼龍を上廻る大型艦となったのです。速力は正規空母と較べれば25.5ノットと低いものでしたが、他の改装空母よりはるかに高く、格納庫は上下2段式で搭載機数も常用48機、補用5機の計53機で蒼龍級に次ぎ、改装空母の中では最も多数の搭載機数を誇っていました。飛行甲板の大きさも長さが蒼龍級より多少短い程度で幅は逆に隼鷹の方が広いものでした。武装も他の改装空母より強力で、蒼龍級と同様に12.7cm高角砲12門、25mm3連装機銃8機を搭載していました。この対空兵器は後に更に強化され、25mm3連装機銃が15基、2連装2基、単装27基にふやされ、12cm28連装ロケット砲6基も増設されたのです。総合的に見た場合、速力がやや低い点、そして商船からの改造空母としての宿命的な防禦力の弱さを除けば、ほぼ中型の蒼龍級に匹敵する能力を隼鷹は持ち、実際、改装空母でありながら正規空母に近い戦力を発揮し、日本海軍機動部隊の中堅として活躍したのです。なお、隼鷹の艦橋は煙突と一体になっており、煙突が外側へ26度の傾斜を持っているのが特色となっている。この煙突は大鳳に採用する予定で実験中だった案そのまま利用したもので、これを採用したのは日本の空母では隼鷹が最初でした。

隼鷹の初陣は昭和17年6月のMI作戦でミッドウ



隼鷹艦橋部

写真提供・文林堂(雑誌航空ファン)

エー攻撃に呼応して3日と5日にダッチハーバーを攻撃、その後第2航空戦隊に編入されて10月上旬にソロモン方面へ進出、ガダルカナル島攻撃、南太平洋海戦(10月24日)、第3次ソロモン海戦(11月9日)、ガダルカナル撤収作戦などに参加。18年3月、再びトラック島方面へ進出。飛行隊はラバウルへ派遣されて「い号作戦」に参加。そして6月、再度トラック島へ進出、飛行隊は11月上旬ブインへ派遣され、搭載機の無くなった隼鷹は8月から10月の間、シンガポールやトラックへの輸送にあたっていましたが、11月5日、沖の島附近で敵潜水艦の魚雷により損傷、利根に曳航されて呉に帰還しました。翌19年2月に修理を終えた隼鷹は、6月19、20日のマリアナ沖海戦に参加、第2航空戦隊旗艦として活躍した隼鷹は煙突附近に2発の命中弾を受けて修理のために日本へ帰還、修復後、ブルネイ方面への輸送任務にあたっていましたが12月9日、潜水艦の魚雷を受け船体を損傷し、佐世保へ帰ったのです。そして翌20年3月に修理を終えたのですが、搭載する飛行機もなく再び出撃することもないまま終戦を迎えたのです。

### 航空母艦隼鷹の主要目

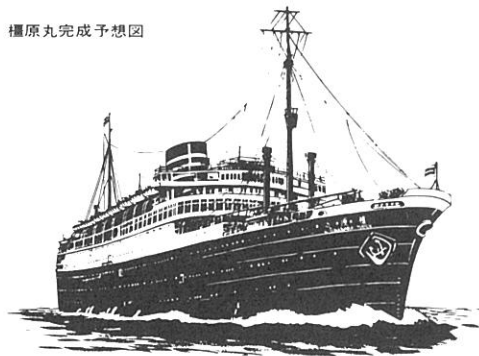
- 公試状態排水量：27,500トン
- 水線長：215.30m
- 最大幅：26.70m
- 最大速力：25.5ノット
- 搭載機数：常用48機、補用5機
- 飛行甲板：長さ210.3m 幅27.3m
- 完成年月日：昭和17年5月3日、三菱長崎造船所

### PAINTING

- 日の丸はフラットレッドXF7
- 味方識別帯オレンジX6

の「一」を「一」に改題した。軍艦は、もとの名を樫原丸（かしわらまる）といい、日本郵船が北米航路用に計画した大型高速客船から改造されました。今日のように旅客機が発達していない戦前は、海外旅行といえば船ときまつており、太平洋でも大西洋でも、各国が競って豪華客船を就航させていたのです。当時、海国日本の象徴の一つと言われていた日本最大の海運会社日本郵船は、昭和15年の東京オリンピック開催に合わせ、昭和12年、いわゆるオリンピックボートとして新田丸、八幡丸、春日丸などの豪華客船の建造を計画したのです。この中でも、特にサンフランシスコ航路に予定されていた樫原丸と出雲丸の2隻は、総トン数27,700トン、速力24ノットで、大西洋航路で活躍していたイギリス、フランスなどの海の女王達にもひけをとらない超豪華船であり、完成のあかつきには太平洋の海の女王として君臨するものと期待を集めていたのです。ところで、かねてから日本海軍は、大型高速商船を戦時には特設航空母艦に改造して使用することを考え、浅間丸、龍田丸、秩父丸（後の鎌倉丸）などの建造にあたって政府を通じて多額の補助金を出していました。しかし、これらの客船では空母に改造した場合、大きさでも速力でも十分とは言えないため、昭和8年頃より、正規空母に近い能力を持つ特設空母ができるような超大型艦の建

樫原丸完成予想図



設けられた樫原神宮から名前をとったものです。こうして樫原丸の建造は、昭和14年3月から三菱長崎造船所で始められました。しかし、その直後から国際情勢は悪化しはじめ、昭和15年に入ると緊張の度は一段と高まってきたため、昭和15年10月、建造中の樫原丸などを特設空母に改装することが決定されたのです。そして翌16年1月21日、正式に海軍で買取り、6月26日、第102号艦の名で進水しました。昭和17年7月5日、太平洋の女王となるはずであった樫原丸は、その姿も名前も改め、いかめしい日本海軍の航空母艦軍艦として完成したのです。

航空母艦としての軍艦は、公試排水量27,500トン、日本のそれまでに建造された空母の中では翔鶴級につぐ巨艦で、中型の着龍を上廻る大型艦となったのです。速力は正規空母と較べれば25.5ノットと低いものでしたが、他の改装空母よりはるかに高く、格納庫は上下2段式で搭載機数も常用48機、補用5機の計53機で着龍級に次ぎ、改装空母の中では最も多数の搭載機数を誇っていました。飛行甲板の大きさも長さが着龍級より多少短い程度で幅は逆に軍艦の方が広いものでした。武装も他の改装空母より強力で、着龍級と同様に12.7cm高角砲12門、25mm3連装機銃8機を搭載していました。この対空兵器は後に更に強化され、25mm3連装機銃が15基、2連装2基、単装27基にふやされ、12cm28連装ロケット砲6基も増設されたのです。総合的に見た場合、速力がやや低い点、そして商船からの改造空母としての宿命的な防禦力の弱さを除けば、ほぼ中型の着龍級に匹敵する能力を軍艦は持ち、実際、改装空母でありながら正規空母に近い戦力を発揮し、日本海軍機動部隊の中堅として活躍したのです。なお、軍艦の艦橋は煙突と一体になっており、煙突が外側へ26度の傾斜を持っているのが特色となっている。この煙突は大鳳に採用する予定で実験中だった案をそのまま利用したもので、これを採用したのは日本の空母では軍艦が最初でした。

軍艦の初陣は昭和17年6月のM I作戦でミッドウ



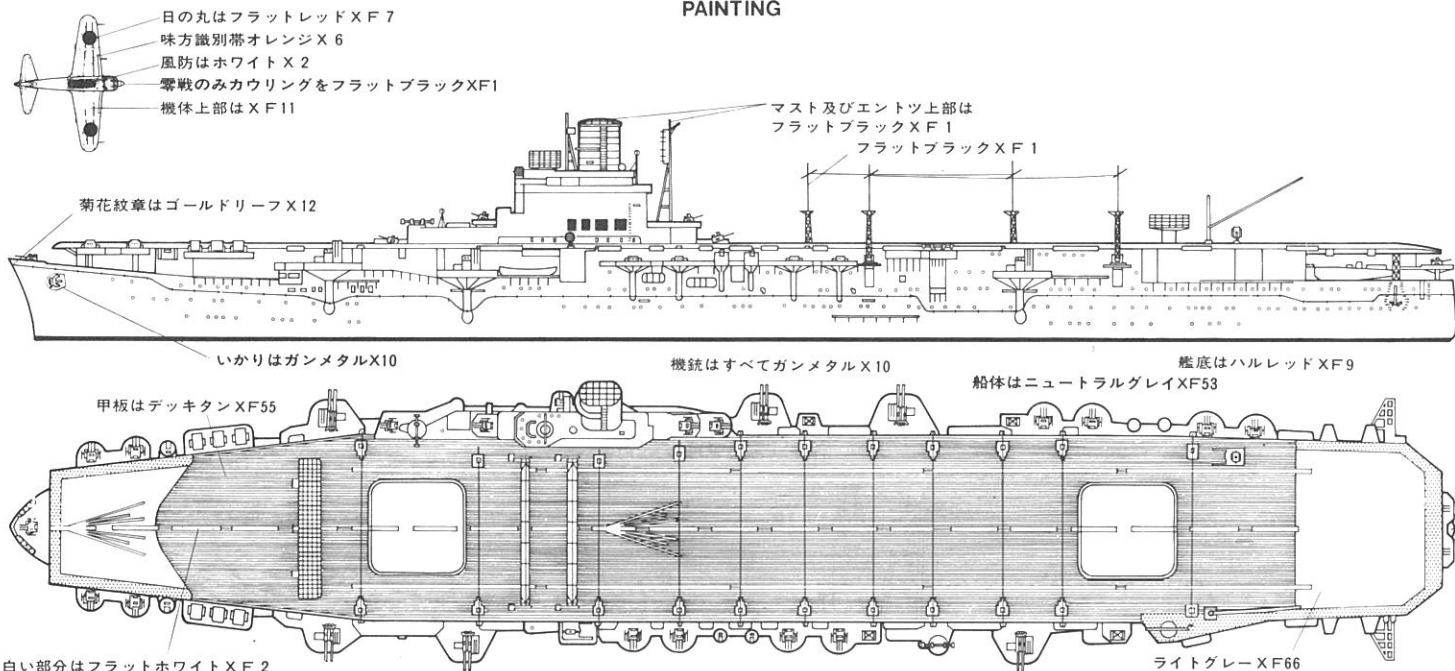
写真提供・文林堂(雑誌航空ファン)

エー攻撃に呼応して3日と5日にダッチハーバーを攻撃、その後第2航空戦隊に編入されて10月上旬にソロモン方面へ進出、ガダルカナル島攻撃、南太平洋海戦(10月24日)、第3次ソロモン海戦(11月9日)、ガダルカナル撤収作戦などに参加。18年3月、再びトラック島方面へ進出。飛行隊はラバウルへ派遣されて「I号作戦」に参加。そして6月、再度トラック島へ進出、飛行隊は11月上旬ブインへ派遣され、搭載機の無くなった軍艦は8月から10月の間、シンガポールやトラックへの輸送にあたっていました。11月5日、沖の島附近で敵潜水艦の魚雷により損傷、利根に曳航されて呉に帰還しました。翌19年2月に修理を終えた軍艦は、6月19、20日のマリアナ沖海戦に参加、第2航空戦隊旗艦として活躍した軍艦は煙突附近に2発の命中弾を受けて修理のために日本へ帰還、修復後、プルネイ方面への輸送任務にあたりましたが12月9日、潜水艦の魚雷を受け船体を損傷し、佐世保へ帰ったのです。そして翌20年3月に修理を終えたのですが、搭載する飛行機もなく再び出撃することもないまま終戦を迎えたのです。

航空母艦軍艦の主要目

- 公試状態排水量：27,500トン
- 水線長：215.30m
- 最大幅：26.70m
- 最大速力：25.5ノット
- 搭載機数：常用48機、補用5機
- 飛行甲板：長さ210.3m 幅27.3m
- 完成年月日：昭和17年5月3日、三菱長崎造船所

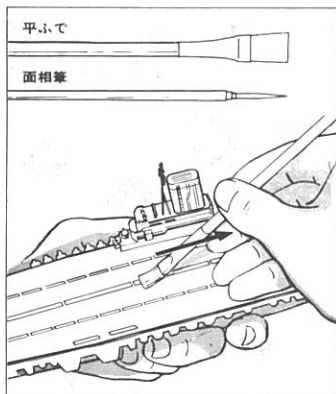
PAINTING



白い部分はフラットホワイトXF2 (セロテープ等でマスキング塗装をして下さい。)

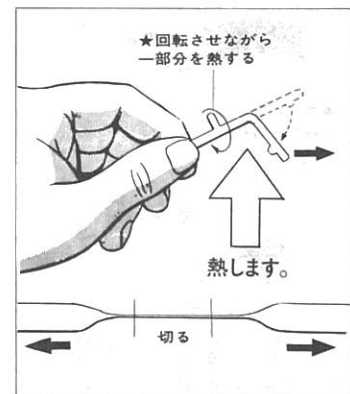
《塗装について》

同じ色に仕上がる部品はできるだけ組立てて、部品の合せ目や、はみだした接着剤を修正してから塗装するのがコツです。筆塗り塗装には簡単でむらなく塗れる、エナメル系のタミヤカラーが最適です。甲板や船体下面のように広い部分は筆を使い、エントツや飛行機などは、細筆を使います。塗料は筆でこすらないようにしましょう。塗装する面におくように塗るのがコツです。厚くぬられた塗料も乾燥すれば彫刻線の消える心配はありません。



《アンテナ線の作り方》

キットをより引きださせる為にアンテナ線をはりましょう。必ずキットを塗装してからおこないます。まずランナー(部品が付いていた枝)を適当な長さに切り、右図の様にやわらかくなるまで熟します。十分熟したところで熟するのをやめ、すばやく引っばると細い糸ができます。箱絵や図面を参考にして接着部分より糸を少し長めに切り、マッチ棒の先に接着剤をつけてアンテナに止めます。このりは接着剤が乾いてから切るのがコツです。



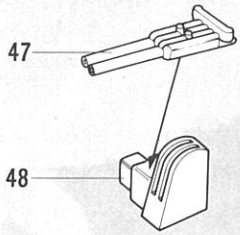
# JUNYO隼鷹

〈作る前にお読みください〉

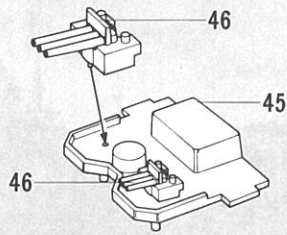
★ランナー（枝）から部品を切りはなす場合必ずニッパーかナイフ等を使って、ていねいに切りはなして下さい。★接着剤は組立てる部品の両方に少しづつ付けて下さい。

★タミヤからはビン入りの接着剤タミヤセメントが別売されております。モデルをきれいに仕上げるタミヤセメントをお使い下さい。

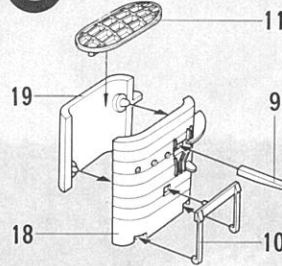
## 1 高角砲のくみ立て 6組作ります。



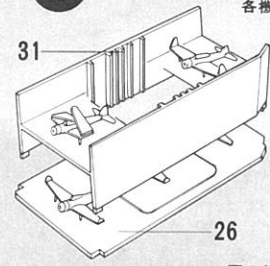
## 2 後部機銃座の組立て



## 3 エントツの組立て



## 4 後部格納庫の組立て

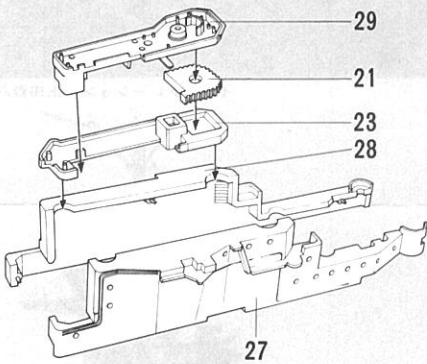


各機の翼の折れる位置

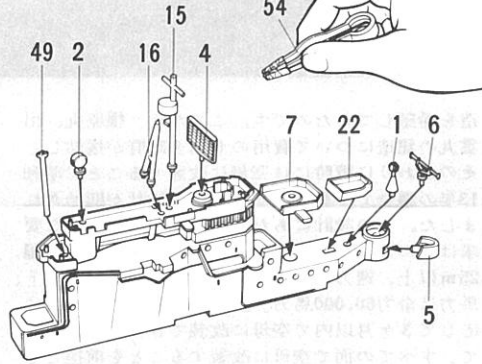


図の位置で翼を切りとり取りつけて下さい。

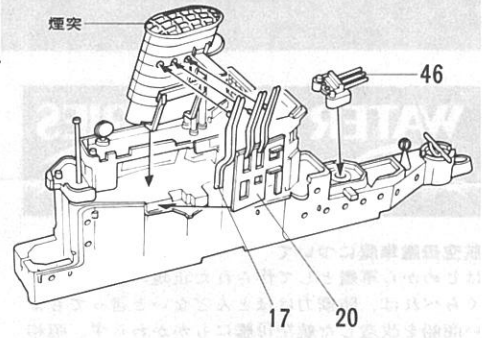
## 5 艦橋の組立て(1)



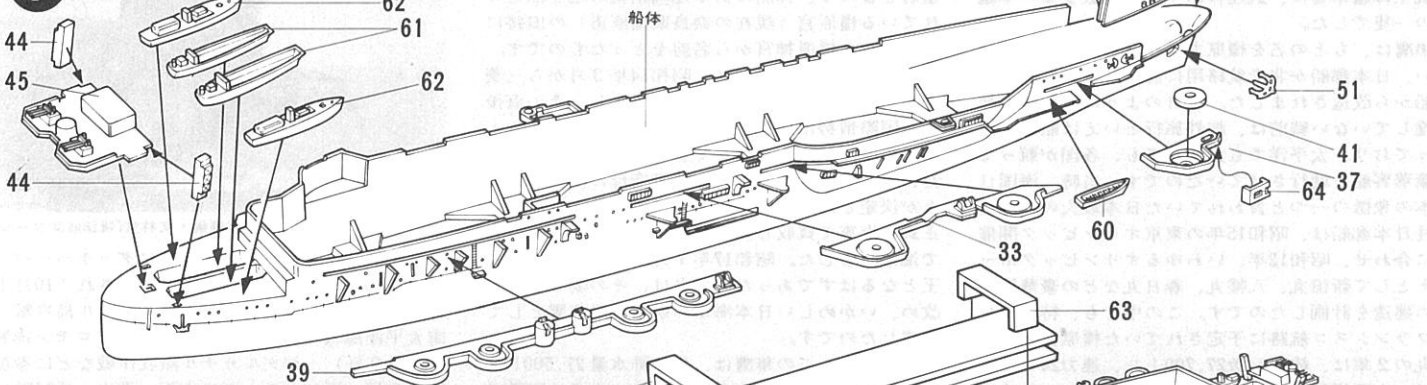
ピンセット54は、先端をナイフ等で形を整え、セロファンテープをまいて使用します。



## 6 艦橋の組立て(2)



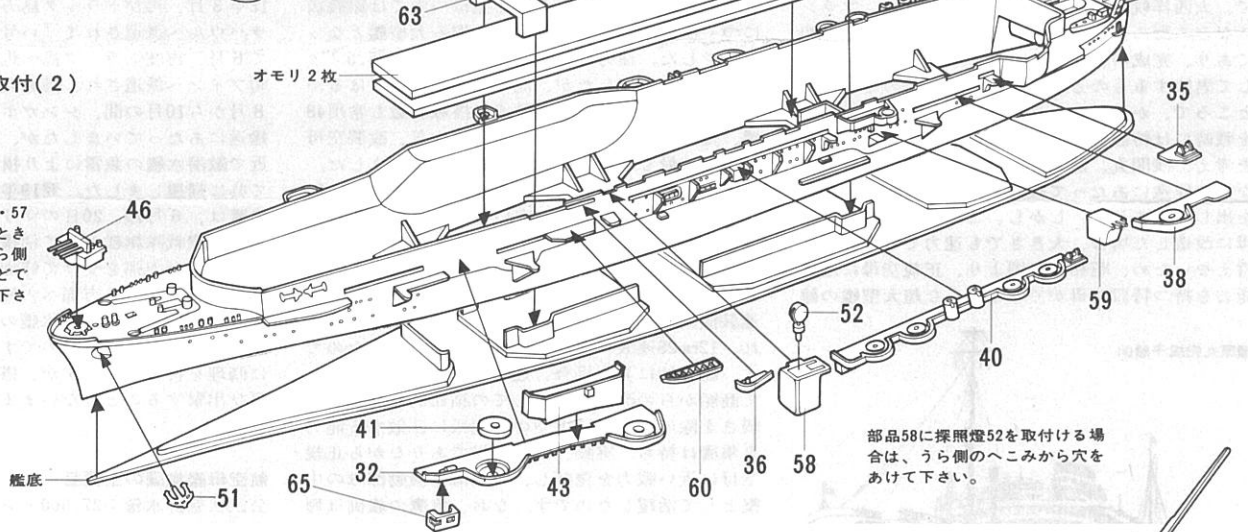
## 7 機銃座の取付け(1)



## 8 機銃座の取付け(2)



部品52・56・57を取付けるときは、甲板うら側よりきりなどで穴をあけて下さい。

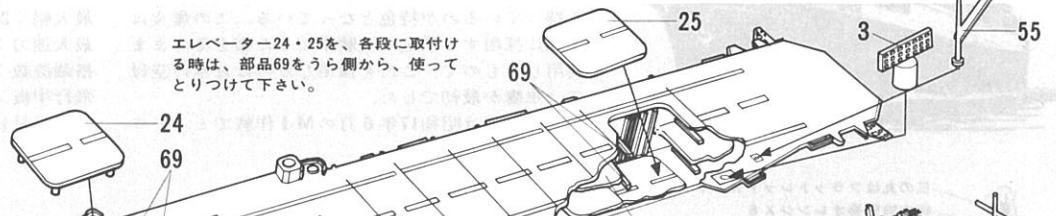


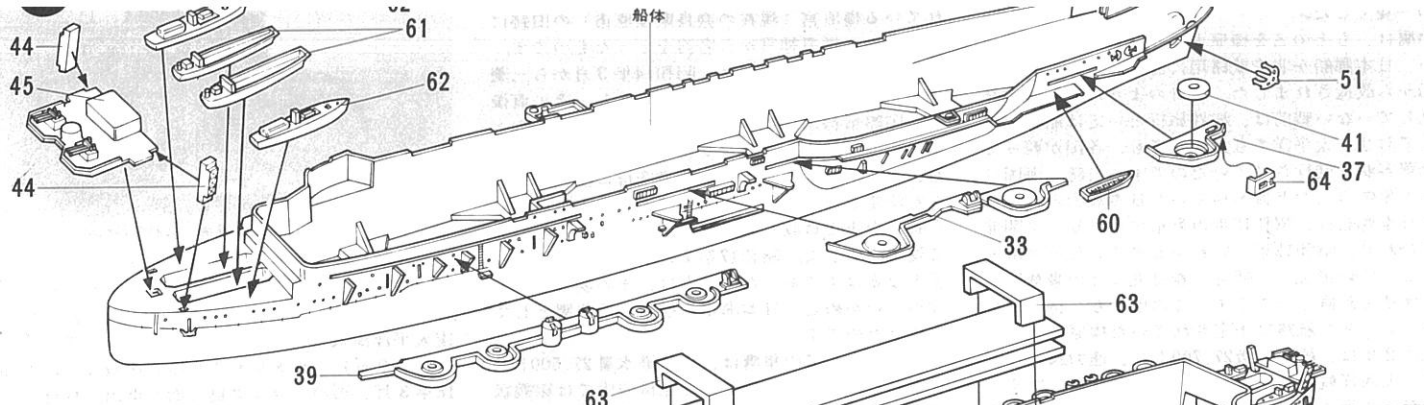
部品58に探照燈52を取付ける場合は、うら側のへこみから穴をあけて下さい。

## 9 甲板・機銃の取付け

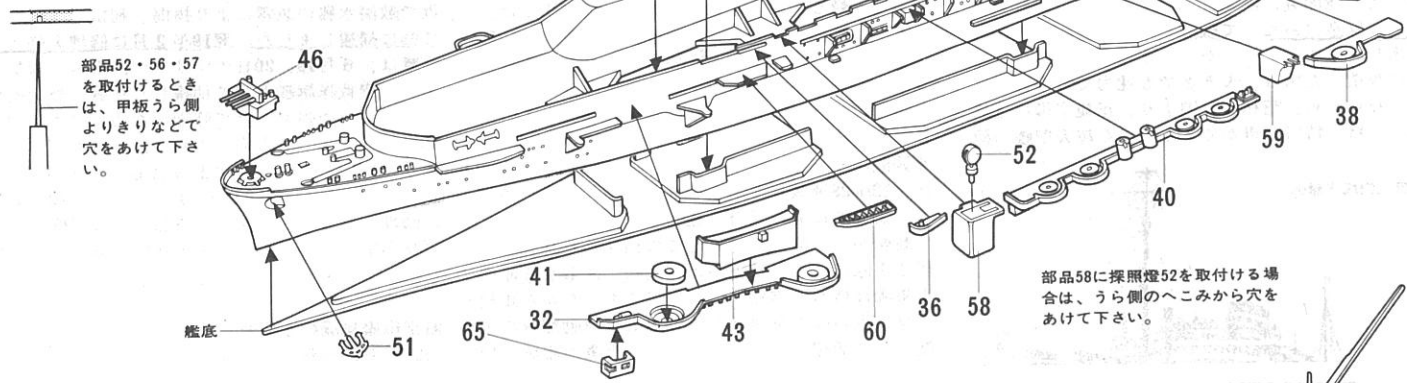


エレベーター24・25を、各段に取付ける時は、部品69をうら側から、使ってとりつけて下さい。





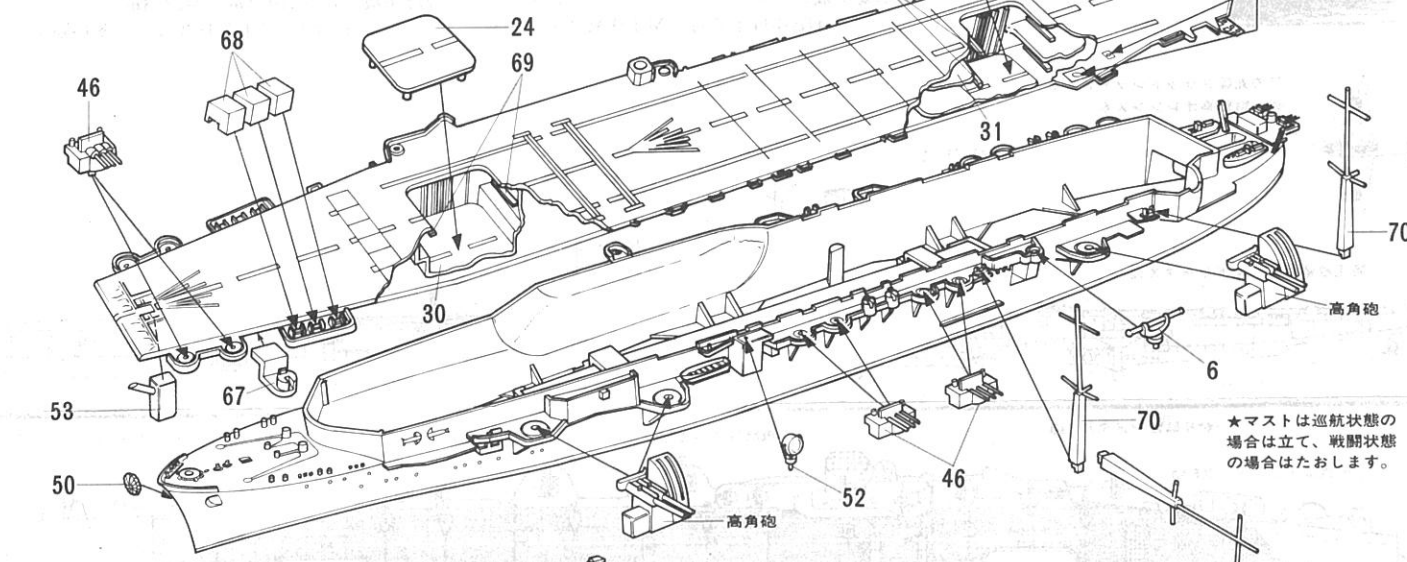
**8** 機銃座の取付 (2)



部品52・56・57  
を取付けるときは、甲板うら側よりきりなどで穴をあけて下さい。

部品58に探照燈52を取付ける場合は、うら側のへこみから穴をあけて下さい。

**9** 甲板・機銃の取付け

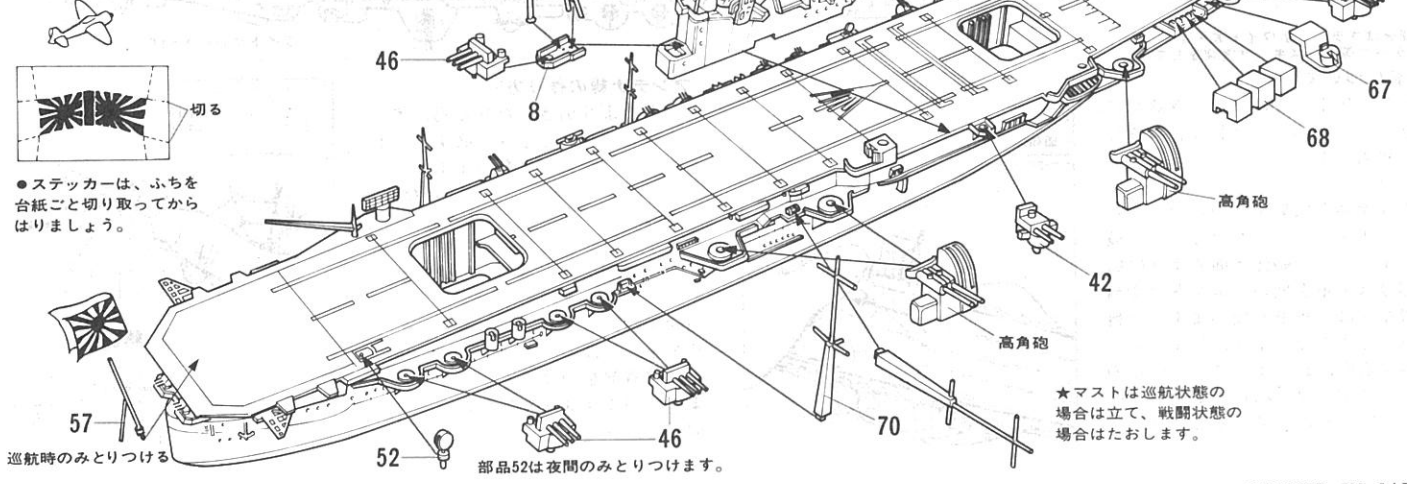


エレベーター24・25を、各段に取付ける時は、部品69をうら側から、使ってとりつけて下さい。

★マストは巡航状態の場合は立て、戦闘状態の場合はたおします。

**10** 艦橋・機銃の取付け

★飛行機は自由に配置して下さい。



●ステッカーは、ふちを台紙ごと切り取ってからはりましょう。

巡航時のみとりつける

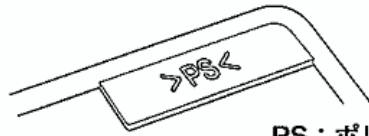
部品52は夜間のみとりつけます。

★マストは巡航状態の場合は立て、戦闘状態の場合はたおします。

## 《ランナー加工 (のぼしランナー等) 時の注意》

### 警告

●必ず>PS<表示のある部品ワク (ランナー) を使用してください。他の材質のランナーを使用した場合、有害なガスが発生する場合があります。



PS : ポリスチレン (スチロール樹脂)

### 注意

●加工する際に、不完全燃焼しますと黒煙が発生します。十分ご注意ください。ランナーは燃えやすい素材です。火災、火傷に注意しながら加工してください。

## Vorsicht beim Erhitzen von Spritzabfall (Ausziehen von Spritzabfall)

### ACHTUNG

●Es darf nur Spritzabfall mit der >PS< Kennzeichnung erhitzt werden. Anderer Spritzabfall kann beim Erhitzen giftige Gase erzeugen.



PS : Polystyrol

### VORSICHTSMASSNAHMEN

●Bei unvollständiger Verbrennung von Spritzabfall entsteht schwarzer Rauch. Diesen keinesfalls einatmen. Spritzabfall ist brennbares Material. Entflammung und dadurch mögliche Verbrennungen vermeiden.

## Cautions on heating sprue (extending sprue)

### WARNING

●Make sure to heat sprue with >PS< marking. Other sprue may generate poisonous gas if heated.



PS : Polystyrene

### CAUTION

●Incomplete combustion of sprue generates black smoke. Be careful not to inhale. Sprue is a combustible material. Be careful not to start fire and burning yourself.

## Précautions lors du chauffage de grappes (plastique étiré)

### ATTENTION

●S'assurer de chauffer des grappes portant la marque >PS<. D'autres grappes peuvent générer des gaz toxiques au cours de ce processus.



PS : Polystyrène

### PRECAUTIONS

●La combustion incomplète des grappes provoque un dégagement de fumée noire. Faire attention de ne pas inhaler. Le plastique est un matériau combustible. Faire attention de ne pas mettre le feu ou de se brûler.